



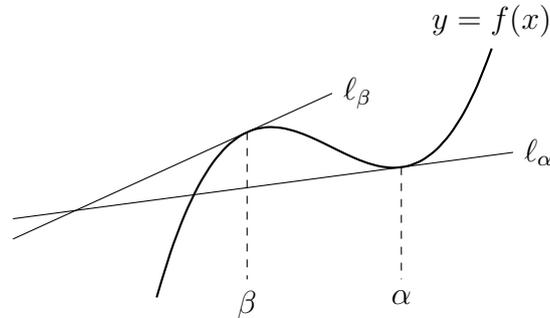
接線と接線の交点（積分を用いた表し方）

曲線 $y = f(x)$ の2本の接線の交点の座標について次が成り立つ。

命題. 曲線 $y = f(x)$ 上の異なる2点 $(\alpha, f(\alpha)), (\beta, f(\beta))$ における接線をそれぞれ l_α, l_β とし, この2接線が交点を持つとする. このとき, 交点の x 座標は, 積分を用いて,

$$x = \frac{\int_{\alpha}^{\beta} t f''(t) dt}{\int_{\alpha}^{\beta} f''(t) dt}$$

と表せる.



証明. 2接線 l_α, l_β の方程式はそれぞれ,

$$l_\alpha : y - f(\alpha) = f'(\alpha)(x - \alpha)$$

$$l_\beta : y - f(\beta) = f'(\beta)(x - \beta)$$

と書ける. 交点を持つという仮定から, $f'(\alpha) \neq f'(\beta)$ なので, y を消去することにより,

$$\begin{aligned} f(\beta) - f(\alpha) &= -(f'(\beta) - f'(\alpha))x + \beta f'(\beta) - \alpha f'(\alpha) \\ (f'(\beta) - f'(\alpha))x &= \beta f'(\beta) - f(\beta) - (\alpha f'(\alpha) - f(\alpha)) \end{aligned} \quad (1)$$

が成り立つ. ここで, 2つの定積分

$$\begin{aligned} \int_{\alpha}^{\beta} f''(t) dt &= [f'(t)]_{\alpha}^{\beta} = f'(\beta) - f'(\alpha), & \int_{\alpha}^{\beta} t f''(t) dt &= [t f'(t)]_{\alpha}^{\beta} - \int_{\alpha}^{\beta} f'(t) dt \\ & & &= [t f'(t) - f(t)]_{\alpha}^{\beta} \\ & & &= \beta f'(\beta) - f(\beta) - (\alpha f'(\alpha) - f(\alpha)) \end{aligned}$$

の計算結果を用いることにより, 等式 (1) は,

$$\left(\int_{\alpha}^{\beta} f''(t) dt \right) x = \int_{\alpha}^{\beta} t f''(t) dt$$

と変形できる. これから主張が従う. □

注意. 上の公式は, その見た目の形は複雑であるが, 計算が楽に行えるという利点がある. これは, 2次導関数を用いているため, $f(x)$ の次数が2下がることと, 定数項と1次の項を無視することができるからである.

例. 放物線の2接線の交点の x 座標が, 2接点の x 座標の平均になっていることを確認しよう. 放物線 $f(x) = ax^2 + bx + c$ ($a \neq 0$) の2接線 l_α, l_β の交点の x 座標は, 上の公式から,

$$x = \frac{\int_{\alpha}^{\beta} 2at dt}{\int_{\alpha}^{\beta} 2a dt} = \frac{[at^2]_{\alpha}^{\beta}}{[2at]_{\alpha}^{\beta}} = \frac{a(\beta^2 - \alpha^2)}{2a(\beta - \alpha)} = \frac{\alpha + \beta}{2}$$

と計算できる. よって結果が従う.